

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	歌唱課題		授業形態/必・選	講義	必修
	フレージング&ヴォイトレ			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験31年 1996年メジャーデビュー。アーティストへの楽曲提供、映画出演、CM、ドキュメンタリー作品のナレーションなどでも活動。					
授業概要						
様々なジャンルの規制楽曲のフレーズを使って、発声方法、歌唱テクニックをレクチャー、指導ポイントをクラス全員が実践して理解する。また歌唱に必要な基本的な発声方法のレクチャー。						
到達目標						
受講する学生自身が発声の基本、歌唱テクニックを理解し習得する。各々の歌唱時に実践出来ること。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	腹式発声についてのレクチャー及び、発声、発音の基本、規制楽曲のフレーズを自分自身で実感し再現出来るようにする。①腹式呼吸の仕組みのレクチャー ②実際に声を出して歌うことによって腹式発声を実感する意味 ③喉のひらきに関するレクチャー ④実際に喉をあける方法					
【前期】 6～10回目	発音(滑舌)に関するレクチャー及び、規制楽曲のフレーズを自分自身で実感し再現出来るようにする。①子音・母音に関するレクチャー ②滑舌が良くなる方法					
【前期】 11～15回目	ピブラートに関するレクチャー及び、規制楽曲のフレーズを自分自身で実感し再現出来るようにする。①ピブラートをかける方法 ②規制楽曲を例にして、フレーズにおけるピブラートの使用方法					
【前期】 16～19回目	ウィスパークボイスに関するレクチャー及び、規制楽曲のフレーズを自分自身で再現出来るようにする。①ウィスパークボイスの方法 ②規制楽曲を例にして、フレーズにおけるウィスパークボイスの使用方法					
【前期】 20回目	前期試験					
【後期】 21～25回目	ナチュラルボイス・ファルセット・ミックスボイス・ヘッドボイスについてのレクチャー及び、規制楽曲のフレーズを自分自身で再現出来るようにする。①ファルセットの発声方法 ②ミックスボイスの発声方法 ③ヘッドボイスの発声方法					
【後期】 26～30回目	抑揚表現・ダイナミクスのレクチャー及び、規制楽曲のフレーズを自分自身で再現出来るようにする。①抑揚表現のレクチャー ②規制楽曲を例にして、楽曲のフレーズにおける抑揚の付け方 ③フレーズのダイナミクスの付け方のレクチャー ④規制楽曲を例にして、楽曲のフレーズにおける抑揚の付け方					
【後期】 31～35回目	トーンコントロールについてのレクチャー及び、規制楽曲のフレーズを自分自身で再現出来るようにする。①トーンコントロールの方法に付いてのレクチャー ②規制楽曲を使用して解説					
【後期】 36回目	後期試験					
【後期】 37～39回目	現代の様々な音楽ジャンル、楽曲テンポにおける歌唱法のレクチャー及び、これまで習得した歌唱技術の確認 ①jpop ②kpop ③洋楽					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	歌うことにおいて発声、リズム、歌唱技術はとても大切です。それらを身に付けることは容易ではないかも知れません。それらが徐々に身に付くことにより、君の歌が素晴らしいになります。歌うことが好きなら諦めないことです。頑張りましょう！					
使用教科書	全コース共通の教科書を使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ヴォイストレーニングⅡ		授業形態/必・選	実習	必修
		ヴォイストレーニングⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当					
担当講師 実務経歴	実務経験4年。ESPエンタテインメント東京ヴォーカルコース卒業。在学中に結成した自身のユニットで楽曲リリースやライブ活動後、卒業から1年でESPにてヴォーカルコース講師に就任。現在はヴォーカリストとして活動しつつ、ヴォーカルトレーナーとして声優育成ボイストレーニングを始め、アーティストや俳優等のヴォイストレーニングを担当。また、自身の音楽スタジオも設立し、ヴォーカル講師として多数レッスンをしつつ経営にも携わっている。					
授業概要						
1年ヴォイストレーニングの復習と応用。楽器である身体を鍛える為の筋力トレーニング、体幹トレーニングを行い、更に歌唱時に必要な身体の使い方を学ぶ。シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。						
到達目標						
各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、身体全体を鍛えると共に発声に必要な身体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「Lifestyle、ストレッチ、姿勢、呼吸」一年次の復習と修正。ヴォーカリストに必要な生活習慣のレクチャー、歌う前に身体の緊張を解す準備運動、基本姿勢、発声に必要な横隔膜及び胸郭の使い方を学ぶ。					
【前期】 5～8回目	「腹式」一年次の復習と修正。発声時に腹圧をどのように設定し、それをどの状況でコントロールするのかを、スケール(音階)を使用したメソッドで繰り返しトレーニングする。					
【前期】 9～12回目	「滑舌」一年次の復習と修正。言葉を発する時の唇、舌、顔の筋肉の基本的な使い方を学ぶと同時に、それぞれの部位を正確に動かせるように繰り返しメソッドを行うことで鍛えていく。また、強弱や明暗などのコントロールを応用として行えるようにする。					
【前期】 13～16回目	「共鳴」一年次の復習と修正。音量ではなく“響き”を作る為に必要な副鼻腔、口腔、咽頭の基本的な使い方を学ぶ。更に、様々なトーン(柔らかい、堅いなど)を使い分けられるようにそのコントロール方法も身に付ける。					
【前期】 17～19回目	「高音域①」一年次の復習と修正。高音域を発声するのに必要な声帯及びその周囲の筋肉の基本的な使い方を学び、対してNGパターンも併せて学ぶ。また、ただ発声出来ているだけではなく、必要な共鳴を備え、その度合い(太い、柔らかいなど)をコントロール出来るように様々なメソッドを繰り返し行う。					
【前期】 20回目	前期試験					
【後期】 21～24回目	「高音域②」上の「高音域①」を継続					
【後期】 25～28回目	「支え」一年次の復習と修正。声を真っ直ぐに伸ばす時や音程が上がる時に、その声の共鳴を安定したものに身体を使い方を、様々なスケールトレーニングを繰り返し行うことにより学ぶ。					
【後期】 29～32回目	「トーンコントロール」一年次の復習と修正。歌詞の内容や曲調に対して必要な声のトーンにはどのようなものがあるかを知り、それらを実際に使える技術を身に付ける。更にどのトーンをどういう場合に使うかのセンスも学ぶ。					
【後期】 33～35回目	「総合①」今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高める。					
【後期】 36回目	後期試験					
【後期】 37～39回目	「総合②」今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高めることを継続する。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	一年時に身に付けた基本的な身体の使い方を常にキープすること。更には得意なものを伸ばし、苦手なものを克服する為の努力を継続させることが大切です。					
使用教科書	全コース共通の教科書を使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルⅡ(前期)	授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブル 前期		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当				
担当講師 実務経歴	実務経験27年。1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレールのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。				
授業概要					
<p>既成曲または学生の制作したオリジナル曲を題材に、互いにコミュニケーションをとりながら周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル=ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。</p>					
到達目標					
<p>合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～18回目	<p>アンサンブルとは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。 <p>課題曲①～④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)またはオリジナル曲を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカバーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。 <p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。 <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりリハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。
【前期】 18～19回目	<p>半期のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	<p>一人が休むと授業の進捗に支障が出ると同時に、最も大切な信用を失ってしまいます。リハや本番に穴を開けると同じと考え、どうしても休む際は学生間で事情を伝達するなどバンドメンバーの一員としての自覚と責任を持ちましょう。 今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。 生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう！</p>
使用教科書	担当教員または学生の制作した譜面

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルⅡ(後期)	授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブル 後期		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当				
担当講師 実務経歴	実務経験27年。1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレースのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。				
授業概要					
<p>既成曲または学生の制作したオリジナル曲を題材に、互いにコミュニケーションをとりながら周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル=ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。</p>					
到達目標					
<p>合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。</p>					
授業計画・内容					
【後期】 1～13回目	<p>アンサンブルとは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。 <p>課題曲①～④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)またはオリジナル曲を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。 <p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。 <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。 				
【後期】 14回目	<p>半期のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「後期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。 				
【後期】 15～19回目 (後期試験)	<p>学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)</p>				
評価方法	<p>学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)</p>				
学生へのメッセージ	<p>一人が休むと授業の進捗に支障が出ると同時に、最も大切な信用を失ってしまいます。リハや本番に穴を開けると同じと考え、どうしても休む際は学生間で事情を伝達するなどバンドメンバーの一員としての自覚と責任を持ちましょう。 今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。 生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう！</p>				
使用教科書	<p>担当教員または学生の制作した譜面</p>				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ソングライティングⅡ		授業形態/必・選	実習	必修
	ベーシック 前期			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験10年 ESPミュージカルアカデミーヴォーカルコース卒業。2011年からヴォーカリストとしてライブや楽曲制作を開始。2018年に作詞家としてメジャーデビュー。現在に至るまで様々なクリエイターの楽曲に歌唱や作詞で参加。現在はゲームの主題歌やゲーム音楽を中心に活動している。					
授業概要						
歌に必要な身体の使い方を身につけ、リズムトレーニングやメソッドを用いて基礎発声をしっかりと作る。 歌の表現力向上の為に、楽曲の世界観や様々なテクニックとパフォーマンスを研究し習得する。						
到達目標						
基礎実技の充実と、ライブやレコーディング時における重要事項の習得 <ul style="list-style-type: none"> ・長く歌い続けられるような安定した発声 ・楽曲の世界観を聞き手に伝えられるテクニック及びパフォーマンス ・ライブ時におけるヴォーカリストとしての自身の魅せ方やメンタルコントロール 						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	身体の使い方とリズムトレーニング <ul style="list-style-type: none"> ・クリックを使用し4分、8分、16分、3連符、8分裏のリズムの取り方 ・表情筋を含む全身のストレッチ、口の開け方、声の仕組みへの理解 					
【前期】 6～10回目	基礎発声 <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なフレーズを使用し低音域から高音域までの発声練習 ・母音の響きの繋がりをしっかりと作り歌唱する 					
【前期】 11～16回目	歌唱力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の世界観を研究する ・楽曲に相応しいテクニックの練習(ビブラート、フォール、エッジ等) 					
【前期】 17～19回目	ステージング、授業内発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱時の魅せ方、ステージングの研究と実践 ・授業内発表会にて本番想定のリズムをした後、自身の歌の改善点や魅力を再確認する 					
【前期】 20回目	前期試験					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	メロディと歌詞とリズムが合っていれば“歌えている”ではありません。楽曲の世界観を深く理解して、その世界観を全身を使って表現し、適切なテクニックやパフォーマンスで聞き手を魅了することが大切です。「何が自分に足りないか」を常に見極めて着実に到達していきましょう。					
使用教科書	学内作成オリジナル教材					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ソングライティングⅡ		授業形態/必・選	実習	必修
	2MVベーシック 後期			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験10年 ESPミュージカルアカデミーヴォーカルコース卒業。2011年からヴォーカリストとしてライブや楽曲制作を開始。2018年に作詞家としてメジャーデビュー。現在に至るまで様々なクリエイターの楽曲に歌唱や作詞で参加。現在はゲームの主題歌やゲーム音楽を中心に活動している。					
授業概要						
歌に必要な身体の使い方を身につけ、リズムトレーニングやメソッドを用いて基礎発声をしっかりと作る。 歌の表現力向上の為に、楽曲の世界観や様々なテクニックとパフォーマンスを研究し習得する。						
到達目標						
基礎実技の充実と、ライブやレコーディング時における重要事項の習得 <ul style="list-style-type: none"> ・長く歌い続けられるような安定した発声 ・楽曲の世界観を聞き手に伝えられるテクニック及びパフォーマンス ・ライブ時におけるヴォーカリストとしての自身の魅せ方やメンタルコントロール 						
授業計画・内容						
【後期】 1～4回目	身体の使い方とリズムトレーニング <ul style="list-style-type: none"> ・クリックを使用し4分、8分、16分、3連符、8分裏のリズムの取り方 ・表情筋を含む全身のストレッチ、口の開け方、声の仕組みへの理解 					
【後期】 4～8回目	基礎発声 <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なフレーズを使用し低音域から高音域までの発声練習 ・母音の響きの繋がりをしっかりと作り歌唱する 					
【後期】 9～12回目	歌唱力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の世界観を研究する ・楽曲に相応しいテクニックの練習(ビブラート、フォール、エッジ等) 					
【後期】 13～14回目	ステージング、授業内発表会① <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱時の魅せ方、ステージングの研究と実践 ・授業内発表会にて本番想定のリハーサルをした後、自身の歌の改善点や魅力を再確認する 					
【後期】 15回目	後期試験					
【後期】 16～19回目	ステージング、授業内発表会② <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱時の魅せ方、ステージングの研究と実践 ・授業内発表会にて本番想定のリハーサルをした後、自身の歌の改善点や魅力を再確認する 					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	メロディと歌詞とリズムが合っていれば“歌えている”ではありません。楽曲の世界観を深く理解して、その世界観を全身を使って表現し、適切なテクニックやパフォーマンスで聞き手を魅了することが大切です。「何が自分に足りないか」を常に見極めて着実に上達していきましょう。					
使用教科書	学内作成オリジナル教材					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ソングライティングⅡ		授業形態/必・選	講義	必修
	2MV&2DVソングライティング 前期			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース / ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当					
担当講師 実務経歴	<p>実務経験18年 高校卒業後に音楽系専門学校に進学。卒業後はサックス奏者として活動を開始、ジャズを中心にロックやポップス、舞台や映画等で演奏。 その後DTMを始め、作曲家やミキシングエンジニアとして活動の場を広げ、様々なアーティストや企画に携わる。 現在、自身のバンドやサポート、イベントの企画主催等の活動をしている。</p>					
授業概要						
iPhoneのスマートフォンを使い、GarageBand(Androidの場合は別のアプリ)を使用し、オリジナル曲制作のやり方を身につける。 作詞やメロディ制作、コード進行、レコーディングの仕方を身につけ、最終的には自身のSNS等で配信ができるように学習する。						
到達目標						
オリジナル曲を制作し、ライブやオーディションで活用できるようになる。 自身の活動の場を広げていけるよう、一人でSNS等での配信ができるようになる。 iPadやiPhone、パソコン等でのデジタルでの現代的な方法での作曲の仕方を学習し作れるようになる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～2回目	[楽曲制作アプリの使い方の学習] GarageBand(Androidの場合は別のアプリ)の使い方を学習。 基本操作を中心に学習する。					
【前期】 3～8回目	[コード進行とメロディの制作] シンプルな短いコードを作れるようになるため、コード理論を学習。そのコードをアプリに打ち込み、実際に歌ってメロディーを制作。 良いメロディの特徴や良さを分析したり、カラオケ音源を使用したりしてメロディーを作成する学習しアプリにて制作を進める。					
【前期】 9～15回目	[楽曲の構成や歌詞の学習] 曲の流れを学習。イントロやAメロ等の曲の構成を学習し、1コーラスの曲の流れを学習。 歌詞のテーマを決め、好きな既存曲の歌詞を分析。コードやメロディを含めアプリにて制作を進める。					
【前期】 16～19回目	[1コーラスの完成] 作った曲をセルフレコーディングをして1コーラスのオリジナル曲を完成させる。					
【前期】 20回目	前期試験					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	オリジナル曲を作ることができると、たくさん素晴らしい活動ができます。 コードやメロディを作ることは難しそうに感じますが、ポイントをつかむと作れるようになります。 一緒に頑張りましょう。					
使用教科書	講師自身が用意し、学生に配布。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ソングライティングⅡ		授業形態/必・選	講義	必修
	ソングライティング 後期			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース / ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当					
担当講師 実務経歴	<p>実務経験18年 高校卒業後に音楽系専門学校に進学。卒業後はサックス奏者として活動を開始、ジャズを中心にロックやポップス、舞台や映画等で演奏。 その後DTMを始め、作曲家やミキシングエンジニアとして活動の場を広げ、様々なアーティストや企画に携わる。 現在、自身のバンドやサポート、イベントの企画主催等の活動をしている。</p>					
授業概要						
iPhoneのスマートフォンを使い、GarageBand(Androidの場合は別のアプリ)を使用し、オリジナル曲制作のやり方を身につける。 作詞やメロディ制作、コード進行、レコーディングの仕方を身につけ、最終的には自身のSNS等で配信ができるように学習する。						
到達目標						
オリジナル曲を制作し、ライブやオーディションで活用できるようになる。 自身の活動の場を広げていけるよう、一人でSNS等での配信ができるようになる。 iPadやiPhone、パソコン等でのデジタルでの現代的な方法での作曲の仕方を学習し作れるようになる。						
授業計画・内容						
【後期】 1～2回目	[楽曲制作アプリの使い方の学習] GarageBand(Androidの場合は別のアプリ)の使い方を学習。 基本操作を中心に学習する。					
【後期】 3～8回目	[コード進行とメロディの制作] シンプルな短いコードを作れるようになるため、コード理論を学習。そのコードをアプリに打ち込み、実際に歌ってメロディーを制作。 良いメロディの特徴や良さを分析氏したり、カラオケ音源を使用したりしてメロディーを作成する学習しアプリにて制作を進める。					
【後期】 9～13回目	[楽曲の構成や歌詞の学習] 曲の流れを学習。イントロやAメロ等の曲の構成を学習し、1コーラスの曲の流れを学習。 歌詞のテーマを決め、好きな既存曲の歌詞を分析。コードやメロディを含めアプリにて制作を進める。					
【後期】 14回目	[1コーラスの完成]① 作った曲をセルフレコーディングをして1コーラスのオリジナル曲を完成させる。					
【後期】 15回目	後期試験					
【後期】 16～19回目	[1コーラスの完成]② 作った曲をセルフレコーディングをして1コーラスのオリジナル曲を完成させる。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	オリジナル曲を作ることができると、たくさん素晴らしい活動ができます。 コードやメロディを作ることは難しそうに感じますが、ポイントをつかむと作れるようになります。 一緒に頑張りましょう。					
使用教科書	講師自身が用意し、学生に配布。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ヴォーカルⅡ(前期)	授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカル歌唱課題曲(前期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当				
担当講師 実務経歴	実務経験17年 大学で声楽を専攻し、卒業 ヴォーカルグループで活動し、番組音楽やスポーツ大会での国家斉唱、豪華客船での演奏など行う 現在は、アーティスト、アイドル、声優、女優、YouTuber、ライバー、インフルエンサー等お仕事で声を使う方へのヴォイストレーニングをメインに行っている				
授業概要					
<p>・いくつかのテーマを設定し、それを学ぶ課題曲を各テーマに対してバリエーションを持たせた複数曲を提示、その中から個々の歌う曲を選び練習していく。 ・カテゴリによっては、自由曲から導入し、課題曲への興味を促す。</p>					
到達目標					
歌としてやるべきことを散りばめた授業なので、設定されたテーマに沿った課題曲を歌うことで、各スキルを習得することを目標とする。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	<ul style="list-style-type: none"> ・初回は授業内容説明と次回からの課題の提示。 ①共鳴のコントロール及び音域 ・伸びやかさ、柔らかさ、パワフル感を持って、高音域の歌い方、曲中の音程の変化に対する身体のコントロール方法。 ・共鳴の度合いを変化させ、その立体感と音程の変化の関連性の実践。 				
【前期】 6～9回目	<ul style="list-style-type: none"> ②16beat(ラップ系を含む) ・ダンスビートを主とした、16beatの曲を歌う。 				
【前期】 10～13回目	<ul style="list-style-type: none"> ③8beat (ハネ16 feelを含む) ・8beatの曲を歌う。 				
【前期】 14～17回目	<ul style="list-style-type: none"> ④テクニック ・比較的技巧派の曲を歌う。 ・未習得テクニックに関してはメソッドを行い、歌詞の解釈につなげる。 				
【前期】 18回目	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ハーモニー ・パートナーとグルーブを合わせ、ピッチ、リズム、テクニックの正確性を高める。 				
【前期】 19回目	前期試験				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	<p>学生へのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題曲では各回のテーマを明確にクリアしていきましょう！ 【履修にあたって】 ・暗譜する ・授業内容をノートに書く 				
使用教科書	・特になし				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ヴォーカルⅡ(後期)		授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカル歌唱課題曲(後期)			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験17年 大学で音楽を専攻し、卒業 ヴォーカルグループで活動し、番組音楽やスポーツ大会での国家斉唱、豪華客船での演奏など行う 現在は、アーティスト、アイドル、声優、女優、YouTuber、ライバー、インフルエンサー等お仕事で声を使う方へのヴォイストレーニングをメインに行っている					
授業概要						
・いくつかのテーマを設定し、それを学ぶ課題曲を各テーマに対してバリエーションを持たせた複数曲を提示、その中から個々の歌う曲を選び練習していく。 ・カテゴリによっては、自由曲から導入し、課題曲への興味を促す。						
到達目標						
歌としてやるべきことを散りばめた授業なので、設定されたテーマに沿った課題曲を歌うことで、各スキルを習得することを目標とする。						
授業計画・内容						
【後期】 1～6回目	初回は授業内容説明と次回からの課題の提示。 ①共鳴のコントロール及び音域 ・伸びやかさ、柔らかさ、パワフル感を持って、高音域の歌い方、曲中の音程の変化に対する身体のコントロール方法。 ・共鳴の度合いを変化させ、その立体感と音程の変化の関連性の実践。					
【後期】 7～10回目	②16beat(ラップ系を含む) ・ダンスビートを主とした、16beatの曲を歌う。					
【後期】 11～14回目	③8beat (ハネ16 feelを含む) ・8beatの曲を歌う。					
【後期】 15～17回目	④テクニック ・比較的技巧派の曲を歌う。 ・未習得テクニックに関してはメソッドを行い、歌詞の解釈につなげる。					
【後期】 18回目	後期試験					
【後期】 19回目	⑤ハーモニー ・パートナーとグルーブを合わせ、ピッチ、リズム、テクニックの正確性を高める。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生への メッセージ	学生へのメッセージ ・課題曲では各回のテーマを明確にクリアしていきましょう！ 【履修にあたって】 ・暗譜する ・授業内容をノートに書く					
使用教科書	・特になし					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	歌唱自由(ヴォイストレーニング)Ⅱ	授業形態/必・選	実習 必修	
	ヴォーカル&ヴォイトレⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、サウンドクリエイターコース(選択)				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当				
担当講師 実務経歴	実務経験31年 1996年メジャーデビュー。アーティストへの楽曲提供、映画出演、CM、ドキュメンタリー作品のナレーションなどでも活動。				
授業概要					
1年ヴォーカル&ヴォイトレの復習と応用。ヴォイストレーニングで学んだことが実際に曲を歌う中で織り込んでいるかを確認し、出来ていないものの再習得のトレーニングを行い、より実践的な身体の使い方を身に付けていく。					
到達目標					
その曲のそのフレーズに必要な発声法をより確実に行うことにより、伸びやかさと力強さ、柔らかさを兼ね備えた声を駆使出来るヴォーカリストになることを目指す。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	「姿勢、呼吸の自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。表題の項目が、歌唱の中で正しく行えているかの確認を行い、行えていないものに関してヴォイストレーニング的メソッドを繰り返し行う。				
【前期】 5～8回目	「腹式の自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。歌唱時に腹圧が多すぎる、少なすぎるものの修正を主に行う。共鳴と関連付ける必要性を理解させ、出ている声の質、発声している本人の喉の負担等の知識も併せて学ばせる。				
【前期】 9～12回目	「滑舌の自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。低いメロディーや柔らかい声の時の発音の弱さ、高音域や激しいオケの時のずっと強すぎる言葉の修正を主なものとする。また、フレーズ内で強弱の差を付けるコントロールも実践出来るようにする。				
【前期】 13～16回目	「共鳴の自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。曲の世界観を伝えるのに必要な、伸びやかな声やパワフルな声などを正しく作れているかを主なものとする。更に、フレーズ内でその大小、強弱をコントロールする方法も学ぶ。				
【前期】 17～21回目	「高音域①の自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。フレーズ内の高音域を発声するのに必要な身体の使い方が正しく出来ているかを確認、出来ていないところを、腹圧の度合い、喉の開き、共鳴の設定、重心の位置を主に確認、修正する。				
【前期】 22回目	前期試験				
【後期】 23～26回目	「高音域②の自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。上の「高音域①の自由曲の中での実践、修正、底上げ」の継続。				
【後期】 27～30回目	「支えの自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。フレーズ内のロングトーンの安定、音の跳躍時の重心の設定及び腹式発声の継続を主に確認、修正する。				
【後期】 31～34回目	「トーンコントロールの自由曲の中での実践、修正、底上げ」一年次の復習、修正。歌詞の世界観、曲調に必要な声のトーンの設定を、腹式の度合い、共鳴の設定などを確認して修正する。更に、フレーズ内での変化、コントロール方法も身に付ける。				
【後期】 35～38回目	「総合①」学んだこと全てを、例題曲の中で実践出来ているかを総合的に確認、修正する。				
【後期】 39回目	後期試験				
【後期】 40回目	「総合②」上の「総合①」の継続。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	出した声に対して、どう身体をコントロールするかによって聴こえ方、伝わり方が違います。その重要性を理解した上で、曲中でこそ様々な身体の部位の使い方をより高めて、声と言葉だけでも曲の世界観が伝わる歌を歌いましょう。				
使用教科書	全コース共通の教科書を使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ギター/キーボードⅡ(前期)		授業形態/必・選	実習	必修
		AG&KEY 前期		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当					
	アコースティックギター			キーボード		
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1997年キューンSONYよりメジャーデビュー。 後に某TV番組にレギュラーギタリストとして1年間出演。 2000年以降はDAWアレンジ、トラックメイク、バンド、 サポートギタリスト等で活動している。			実務経験15年 国内外のアーティストやバンドのサポートキーボーディストとして、各地でのワ クショップやライブ、アレンジ、レコーディング等に携わる。 レッスンや指導も行う傍ら、自身のユニットでも活動中。		
授業概要						
	アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 初心者から中級者に向けたアコースティックギターの扱い方。 色々なジャンルの弾き方。 DAWでの作曲におけるギターの扱い方。			アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 1年生で習得した基礎を元に、様々なジャンルやスタイルに触れる。 コードワークを更に広げる。		
到達目標						
	テンションコードを含めたコードワークに対応出来るようにする。 コードフォームを工夫したアルペジオ、カッティング。 3フィンガー、4フィンガー使い分け。ソロギター的なアプローチ。			弾き語りや自身の楽曲制作にキーボード楽器を積極的に取り入れ、作風や表現 を広げていく。 コードアレンジができる。		
授業計画・内容						
	アコースティックギター			キーボード		
【前期】 1～6回目	レベルチェック及びそれぞれの音楽スタイルをチェック ・ベーシックなコードワークを確認 ・クリックに合わせたストローク、強弱も含めて演奏する			コードベーシックの確認 ・仕組み、転回フォーム、ダイアトニック、など ・それぞれの現状把握		
【前期】 7～11回目	ジャンルに合わせた演奏スタイル① ・ポップス(セブンスコード等の確認、シンコペーション含むリズム) ・フォーク(アルペジオ、伝統的な3フィンガーのパターン)			テンションコードのボイスン ・9th、13thなど フォームや使い方		
【前期】 12～16回目	ジャンルに合わせた演奏スタイル② ・ロック(ブリッジミュート奏法、パワーコードとブラッシング) ・ブルース(パワーコードの連結、ターンアラウンドの代表的なフレーズ)			コードアレンジ、転調 ・シンプルなメロディーにコード付けをしてみる ・キーチェンジのバリエーション		
【前期】 17～18回目	ジャンルに合わせた演奏スタイル③ ・ソウル(カッティング、コーネルデュプリースタイルのフレーズ) ・R&B(ハネるグルーヴ、スモールコード、デビッドTスタイルのフレーズ)			両手で作るリズム ・両手の役割、バランス、組み合わせのトレーニング		
【前期】 19回目	「前期試験」			「前期試験」		
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	アコースティックギター(なるべく)持参 ピックは必ず持参 未経験の人も楽しんで、ギターを通して様々なジャンルにも触れてみましょう!			沢山チャレンジし、吸収しながら更に自身の表現の幅を広げていってください!		
使用教科書	無し			必要に応じて課題曲の譜面配布		

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	実習:選択ギター/キーボードⅡ(後期)		授業形態/必・選	実習	必修
	AG&KEYⅡ 後期			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
	アコースティックギター			キーボード		
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1997年キューンSONYよりメジャーデビュー。 後に某TV番組にレギュラーギタリストとして1年間出演。 2000年以降はDAWアレンジ、トラックメイク、バンド、サポートギタリスト等で活動している。			実務経験15年 国内外のアーティストやバンドのサポートキーボーディストとして、各地でのワークショップやライブ、アレンジ、レコーディング等に携わる。 レッスンや指導も行う傍ら、自身のユニットでも活動中。		
授業概要						
	アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 初心者から中級者に向けたアコースティックギターの扱い方。 色々なジャンルの弾き方。 DAWでの作曲におけるギターの扱い方。			アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 1年生で習得した基礎を元に、様々なジャンルやスタイルに触れる。 コードワークを更に広げる。		
到達目標						
	テンションコードを含めたコードワークに対応出来るようにする。 コードフォームを工夫したアルペジオ、カッティング。 3フィンガー、4フィンガー使い分け。ソロギター的なアプローチ。			弾き語りや自身の楽曲制作にキーボード楽器を積極的に取り入れ、作風や表現を広げていく。 コードアレンジができる。		
授業計画・内容						
	アコースティックギター(前期内容復習も兼ねる)			キーボード(前期内容復習も兼ねる)		
【後期】 1～5回目	3フィンガーピッキングのバリエーション ・ハンマリング、プリング、スライドのテクニックの確認 ・開放弦の効果的な使い方			スタイル別のバックビートリズムパターン① ・ロック(アップ、バラード) ・ブルース(シャッフル) ・ファンク		
【後期】 6～10回目	ジャンルに合わせた演奏スタイル④ ・ボサノバ(ベースノートと和音の組み合わせ方) ・ジャズ(複雑なコードのボイスイング、6th 9th 11th 13th)			スタイル別のバックビートリズムパターン② ・ソウル(ミディアム、バラード) ・ボサノバ(ラテン) ・ニューオーリンズ(セカンドライン)		
【後期】 11～16回目	アンサンブルの中でのギター演奏 ・ギター2本でのアンサンブル 実際に2本でやってみる ・DAW上でパートを重ねるコツ ・他楽器との調和を考えた演奏及びフレーズ作成			アンサンブルの中でのキーボード演奏 ・インプロビゼーション ・循環パターンソロにチャレンジ		
【後期】 17回目	「後期試験」			「後期試験」		
【後期】 18～19回目	簡単なソロギターのアプローチ ・メロディを浮き立たせる強弱バランス ・クラシックギターの奏法を取り入れる ・アポヤンド、アルアイレの弾き分け			オリジナル曲または課題曲演奏、年間のまとめ		
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	アコースティックギター(なるべく)持参 ピックは必ず持参 未経験の人も楽しんで、ギターを通して様々なジャンルにも触れてみましょう!			沢山チャレンジし、吸収しながら更に自身の表現の幅を広げていってください!		
使用教科書	無し			必要に応じて課題曲の譜面配布		

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ヴォーカルトレーニングⅡ		授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカルテクニックⅡ			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験29年。 音楽大学音楽教育学部卒業後、高校音楽科非常勤講師を経てダンスヴォーカルグループでの活動の他、アーティストのコーラスなどに参加。現在はアーティスト、ライバー、アイドル等のヴォイストレーニング、軽音部コーチなど後進の育成を手掛けている。					
授業概要						
一年次に習得したテクニックの復習と応用。歌詞やオケ(楽器)の演奏に対して必要な様々なテクニックを理解、習得し表現力を高め、伝える歌、感動を与える歌を創る。						
到達目標						
歌詞の世界観に相応しい表現を織り込み、「伝わる歌」を歌えることを目指し、技術の高い歌をどのタイプの曲でも歌えるようになることを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1~4回目	「自由曲中でのアタック、アクセントの習得」の一年次の復習、修正 ・口の開きや動きの強弱と腹圧の関係 ・母音`子音`母音の流れに対する発音との関係 ・オケのリズムアプローチとの関係					
【前期】 5~8回目	「自由曲中でのアップベンド、ダウンベンドの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なスケルトントレーニング ・フレーズを抽出、その中での実践 ・1コーラスでの実践					
【前期】 9~12回目	「自由曲中でのヴィブラートの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの修練 ・ハミングでの歌唱 ・フレーズでの実践					
【前期】 13~16回目	「自由曲中でのエッジ、ウイスキーヴォイスの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復 ・1フレーズを抽出、実践 ・1コーラスでの実践					
【前期】 17~21回目	「自由曲中でのダイナミクス、クレッシェンドの習得」の一年次の復習、修正 ・共鳴の確認、副鼻腔・口腔・咽頭のバランスの確認 ・各共鳴腔の増減のコントロール ・フレーズ、1コーラスでの実践					
【前期】 22回目	前期試験					
【後期】 23~26回目	「自由曲中でのファルセットの習得」の一年次の復習、修正 ・共鳴の副鼻腔・口腔内のバランスの確認 ・息の量の増減、そのコントロール ・ナチュラルヴォイス→ファルセット→ナチュラルヴォイスの切り替え					
【後期】 27~30回目	「自由曲中でのプレスアピール、プレスカットの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復、腹式呼吸との関連性 ・1フレーズの抽出、反復 ・1コーラス内での実践					
【後期】 31~34回目	「自由曲中でのヒーカップ、フォールの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復、ナチュラル→ファルセットの切り替え、音程の幅広い上げ下げ ・1フレーズ内での実践、テンポキープの確認 ・1コーラスでの実践、入れる場所を選ぶセンスのチェック					
【後期】 35~37回目	「総合①」学んだこと全ての確認、復習、修正					
【後期】 38回目	後期試験					
【後期】 39回目	「総合②」上の「総合①」学んだこと全ての確認、復習、修正の継続					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	一年次に習得したテクニックを更に確実にし、習得出来なかったものをそのままにしないこと。伝える歌には必要な“テクニック”があり、それが入れられていない歌は感動を与えることから遠ざかってしまうことに危機感を持ち、諦めないで何度も繰り返し練習しましょう。					
使用教科書	全コース共通の教科書を使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	フィジカルトレーニング		授業形態/必・選	講義	必修
		フィジカルトレーニング		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当					
担当講師 実務経歴	実務経験26年 自身のバンドでメジャーデビュー、海外ツアーなどを経験。 その後メジャーインディー国内外問わず様々なアイドルの指導者として通算120組以上の指導を担当。ヴォーカル、ダンスのみならずダイエット指導、ボディメイク指導なども行う。					
授業概要						
ヴォーカリストとして必要な筋力と体力をつける為のトレーニングやストレッチ方法を実際に身体を動かしながら指導。 また、ダイエットやボディメイクに関する正しい知識についても指導する。						
到達目標						
・発声に特に必要な腹直筋、脊柱起立筋などのアウターマッスル、大腰筋、腸腰筋などのインナーマッスルを強化。 ・有酸素運動によって見た目を引き締め、ステージングに必要な体力も得る。 ・その他、個人的にこういう身体になりたいなど要望があれば個別に強化メニューも加える。						
授業計画・内容						
【前期】 1回目	トレーニングとはどのようなものなのか、なぜトレーニングをするべきなのか、食事はどうすべきかなど、トレーニングの基本を座学にて指導					
【前期】 2～6回目	ストレッチ、インナーマッスルのトレーニングをメインに脱力の方法も加えて					
【前期】 7～11回目	腹直筋、脊柱起立筋、大胸筋、大腿四頭筋のトレーニングも強化					
【前期】 12～16回目	アプローチを変えてストレッチ、インナーマッスルトレーニングレベル2					
【前期】 17～21回目	アプローチを変えてアウターマッスルトレーニングレベル2					
【前期】 22回目	前期試験					
【後期】 23～27回目	前期のトレーニングに加えて有酸素運動トレーニング、リズムトレーニングも追加					
【後期】 28～32回	酸素トレーニングに体幹トレーニングを両立した動きを追加(レベル2)					
【後期】 33～37回目	アウターマッスルトレーニングレベル3					
【後期】 38～40回目	有酸素トレーニングレベル3①					
【後期】 41回目	後期試験					
【後期】 37～39回目	有酸素トレーニングレベル3②					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	身体を鍛えることは心身ともに健康になるために必要不可欠です。 慣れていない人にはつらいこともあるかもしれませんが、無茶はさせませんので自分の出来る範囲で最大限頑張り、諦めずに付けてください。全授業が終わった頃には確実に自分の心身に変化が出ていることを約束します。					
使用教科書	無し。実演しつつ口頭で指導。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	業界基礎知識		授業形態/必・選	講義	必修
	業界基礎知識			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験41年。1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレースのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。					
授業概要						
ヴォーカリストを志すにおいて必要となる業界基礎知識の講義。他には、卒業後に社会に出ていくために必要な税金や保険、人生訓なども併せて行う。						
到達目標						
いざ現場に出た時に困らない基礎知識を身に付けることにより、効率の良い活動を繰り返せること。また、挨拶、時間を守るなど社会人として必要な礼儀も身に付け、周りのスタッフや会社の同僚等から信頼される人間になることを目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1回目	講師の自己紹介、授業の内容と方針の説明、体重と体脂肪率の測定を行い3か月ごとのグラフ作成					
【前期】 2～5回目	オーディションやスカウトの実態、ライブをするのに必要なこと、バンドを組む際の注意点					
【前期】 6～9回目	レーベルプロダクションとは、アーティスト契約について、プロの音源制作の流れ					
【前期】 13～16回目	プロデューサー、ディレクター、レコーディング、トラックダウン、マスタリングとは					
【前期】 17～19回目	音楽著作権とは					
【前期】 20回目	前期試験					
【後期】 21～24回目	作詞作曲法、オリジナル曲の持つ意味、カヴァーの意味、その例					
【後期】 25～28回目	プロモーションに関して					
【後期】 29～32回目	ライブツアーに関して					
【後期】 33～37回目	卒業後にやるべきこと①貯蓄の必要性、保険や税金について					
【後期】 38回目	後期試験					
【後期】 39～40回目	卒業後にやるべきこと②友人や家族の意味、目標を持つことの大切さ、トラブルに対する考え方					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	音楽業界には、一般の人が知らない様々な仕事や取り組み方があります。君たちが憧れているアーティストがどのような努力を重ねて音源を制作し、ステージに上がっているかを知り、更にその姿に憧れて、モチベーションを上げましょう。また、音楽業界ではない社会に出ていこうとする時に恥ずかしくない知識を得て、今後の人生をしっかりと歩いて行きましょう。					
使用教科書	自己で集め作成したテキストを使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	歌唱自由(クリエイト)Ⅱ		授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカルクリエイトⅡ			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ギターヴォーカルコース、シンガーソングライターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当					
担当講師 実務経歴	実務経験32年。1992年CDデビュー、1999年ボストンへ単身渡米、帰国後2004年ボイストレーナーとしても活動を開始。大手プロダクション所属アーティスト、声優、俳優らを数多く指導する。その他ラジオパーソナリティや楽曲提供も積極的に行っており、現在は音楽プロダクション(株)Mackie-i-Lands 代表取締役の顔も持つ。					
授業概要						
1年次に掴んだ自分のスタイルを更に極める為に、発声、テクニック、ステージングなど全ての面をスキルアップ。個々の声質、キャラクターを活かし、“この歌詞、メロディーを伝える為に、自分だったらどう歌うか”を追求する。						
到達目標						
ヴォーカリストに必要な“自分のスタイル”を一年次よりも確立させ、その特性を伸ばし、より確実なものに仕上げ「Only One」の歌を歌えるようになること、それをライブやオーディションに繋げることを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～2回目	一年次にある程度絞り込んだヴォーカルスタイルを学生に口頭で説明させ、実際に歌唱で確認。 声質、音域、現時点で身につけているもの、足りないものを提示及び解説し、残りの一年間で学ぶべき内容を正確に自覚させる。					
【前期】 3～6回目	発声面の良いところと一年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導(特に共鳴・腹式に関して) ※以下、各ポイントの指導期間の短縮及び曲数の増加は、各講師の判断で行うものとする					
【前期】 7～10回目	発声面、技術面の良いところと一年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主にバンド、ヴィブラート、エッジに関して)					
【前期】 11～14回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと一年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主に顔の表情、手の動き、ボーシングの設定と変化に関して)					
【前期】 15～19回目	フルコーラスの仕上げ、一年次との比較(歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて)					
【前期】 20回目	前期試験					
【後期】 21～24回目	二曲目を選ばせ、発声面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特に共鳴、腹式に関して+支え、滑舌)					
【後期】 25～28回目	発声面、技術面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特にバンド、ヴィブラート、エッジ+プレスアビール、アクセントなど)					
【後期】 29～32回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導					
【後期】 33～37回目	フルコーラスの仕上げ、一年次との比較(歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて)					
【後期】 38回目	後期試験					
【後期】 39～40回目	総復習、アーティスト性の絞り込み					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	個性を残したまま自分が歌いたい曲を「歌える曲」にすること。歌えていない曲をただ歌いたいから歌う、ではない形に仕上げることは、ヴォーカリストとして評価を上げる為には大切です。「自分にしか歌えない、自分だから歌える歌」をてに入れてみましょう。					
使用教科書	全コース共通の教科書を使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習Ⅱ	授業形態 / 必・選	演習	必修
	アーティスト実地演習Ⅱ		年次	2年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(32単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。					

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目～7回目	コースイベント①②
8回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅡ(前期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
4～6回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
7～9回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～19回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅡ(後期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
4～6回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
7～9回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
10～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～19回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。